
2018年度 第1四半期決算及び
2018年度 業績見通し
説明資料

帝人株式会社
2018年8月1日

1. 2018年度 第1四半期決算の概要 P. 2
2. 2018年度 業績見通しの概要 P.13
3. 参考資料 P.28

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

本資料は2018年8月1日午前11時30分に公表した弊社四半期決算に基づくものです。

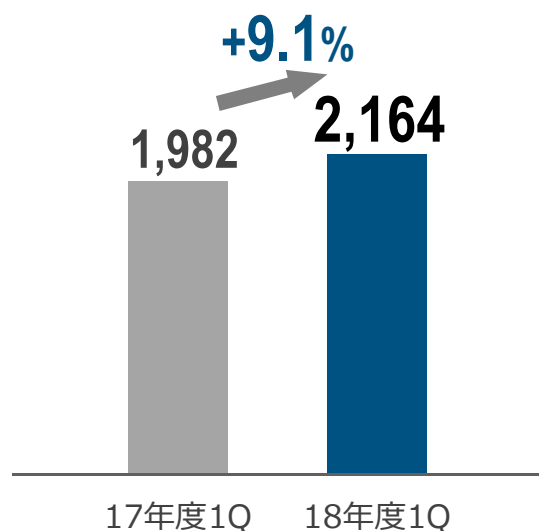
1. 2018年度 第1四半期決算の概要

決算ハイライト

- ・ マテリアル領域を中心に販売堅調
- ・ 前期の医薬品分野導出対価がなくなり営業利益減益
- ・ 営業外収益や特別利益計上増により四半期純利益増

(単位：億円)

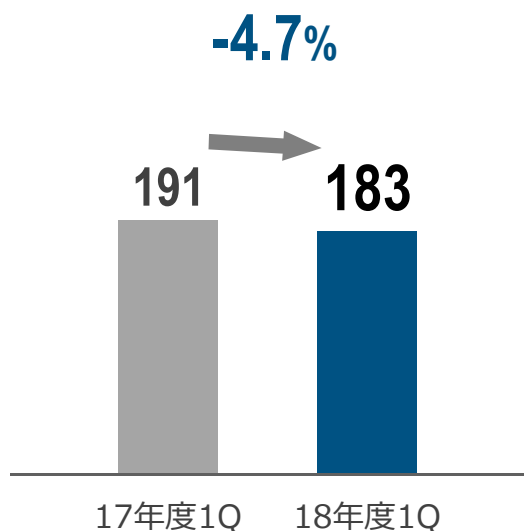
売上高



売上高 増収

- ・ マテリアル領域は各事業の販売が堅調に推移し増収
- ・ ヘルスケア領域は前期の導出対価がなくなり微減

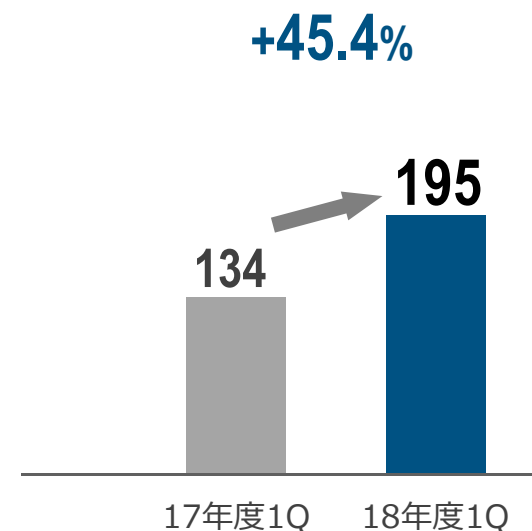
営業利益



営業利益 微減益

- ・ マテリアル領域はPC樹脂の販売構成改善等で増益
- ・ ヘルスケア領域は薬価・診療報酬改定を販売増でカバーも、前期の導出対価がなくなり減益

親会社株主に帰属する 四半期純利益



四半期純利益 増益

- ・ 営業利益は微減益も、営業外収益や特別利益の増加により増益

(億円)

◆ 経営成績

	17年度 1Q	18年度 1Q	差異	増減率
売上高	1,982	2,164	+181	+9.1%
営業利益	191	183	-9	-4.7%
営業外損益	9	29	+20	+229.2%
経常利益	200	212	+12	+5.8%
特別損益	-5	49	+54	-
税金等調整前 四半期純利益	196	261	+65	+33.4%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	134	195	+61	+45.4%

ROE *1	15.3%	19.5%	+4.2%
営業利益ROIC *2	12.2%	11.2%	-1.0%
EBITDA *3	303	299	-4

	17年度 1Q	18年度 1Q	差異	増減率
設備投資 *4	88	119	+31	+34.6%
減価償却費	112	116	+5	+4.1%
研究開発費	83	83	-0	-0.0%

*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「営業利益÷投下資本」にて算出
(投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)
*1, *2は年換算後の数値

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 設備投資には無形固定資産を含む

◇ P L 換算レート

	17年度 1Q	18年度 1Q	差異
円/米ドル	111	109	-2
円/ユーロ	122	130	+8
米ドル/ユーロ	1.10	1.19	+0.09

(億円)

◆ 営業外損益

	17年度 1Q	18年度 1Q	差異
受取利息	2	3	+0
受取配当金	11	12	+1
デリバティブ評価益	4	29	+25
持分法による投資利益	3	3	-0
雑収入	2	4	+1
営業外収益 計	23	50	+27
支払利息	6	8	+2
為替差損	5	9	+4
雑損失	3	4	+1
営業外費用 計	14	21	+6
営業外損益 計	9	29	+20

◆ 特別損益

	17年度 1Q	18年度 1Q	差異
固定資産売却益	0	2	+2
受取和解金	-	45	+45
その他	0	5	+5
特別利益 計	1	52	+52
固定資産除売却損	2	2	+0
その他	3	1	-2
特別損失 計	6	3	-2
特別損益 計	-5	49	+54

◆ 財政状態

(億円)	18年 3月末*	18年 6月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	9,820	10,281	+461	+20
負債	5,737	6,047	+309	+9
(内 有利子負債)	3,442	3,852	+410	+11
純資産	4,082	4,234	+152	+11
D/Eレシオ	0.88	0.94	+0.07	—

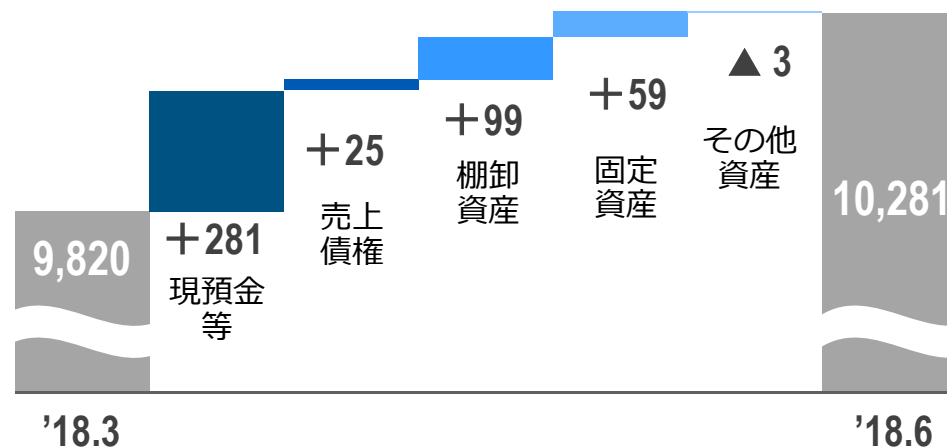
* 「税効果会計に係る会計基準」の一部改正を18年3月末に遡って反映

◆ キャッシュ・フローの状況*

(億円)	17年度 1Q	18年度 1Q	差異
営業活動	111	146	+35
投資活動	-156	-122	+34
フリー・キャッシュ・フロー	-46	23	+69
財務活動他	50	268	+219
現金及び 現金同等物増減	4	292	+288

* キャッシュ・フローについては金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外

◇ 総資産 増減内訳 (億円)



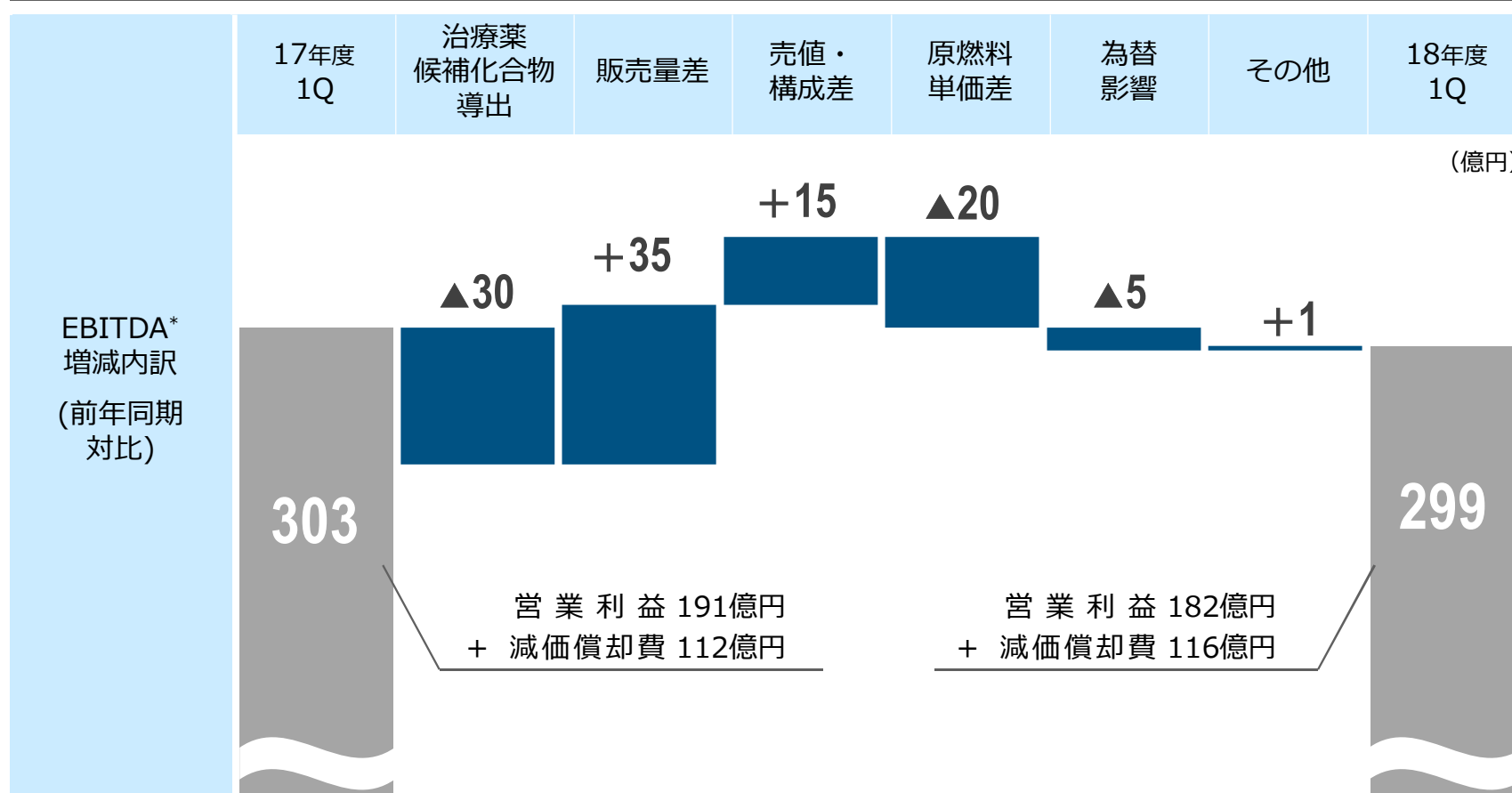
◇ BS換算レート

	18年 3月末	18年 6月末	差異
円/米ドル	106	111	+4
円/ユーロ	131	128	-3
米ドル/ユーロ	1.23	1.16	-0.07

◆ EBITDA*増減内訳（前年同期対比）

前年同期対比 微減益

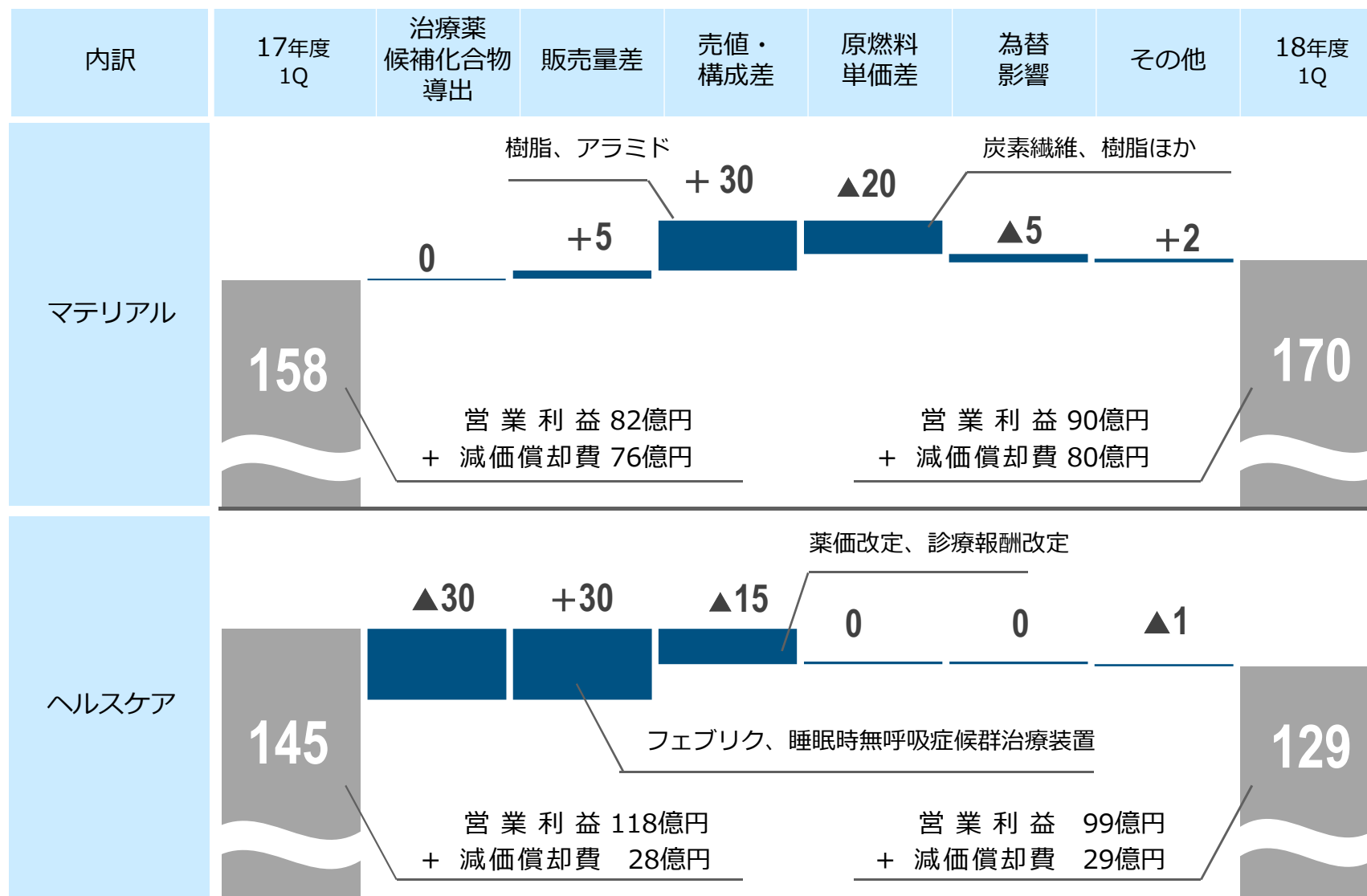
(+) ポリカーボネート（PC）樹脂、繊維・製品等の販売増
 (+) 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブリック」、睡眠時無呼吸症候群治療装置の販売増
 (-) 薬価・診療報酬改定、前期の導出対価（治療薬候補化合物）がなくなる



* 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 EBITDA*増減内訳 (前年同期対比)

(億円)



* 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

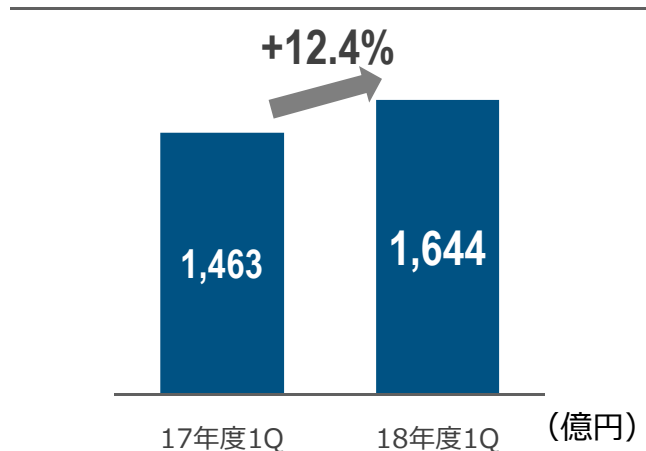
◆ セグメント別 売上高・営業利益比較（前年同期対比）

		(億円)	17年1Q	18年1Q	差異	増減率
売上高	マテリアル事業		604	687	+83	+13.8%
	繊維・製品事業		664	738	+73	+11.0%
	複合成形材料事業ほか		194	219	+24	+12.6%
	マテリアル 計		1,463	1,644	+181	+12.4%
	ヘルスケア		397	392	-5	-1.3%
	その他		122	128	+6	+4.8%
	合計		1,982	2,164	+181	+9.1%
営業利益	マテリアル		82	90	+8	+10.0%
	ヘルスケア		118	99	-19	-15.9%
	その他		10	6	-4	-38.2%
	消去又は全社		-19	-13	+6	-
	合計		191	183	-9	-4.7%

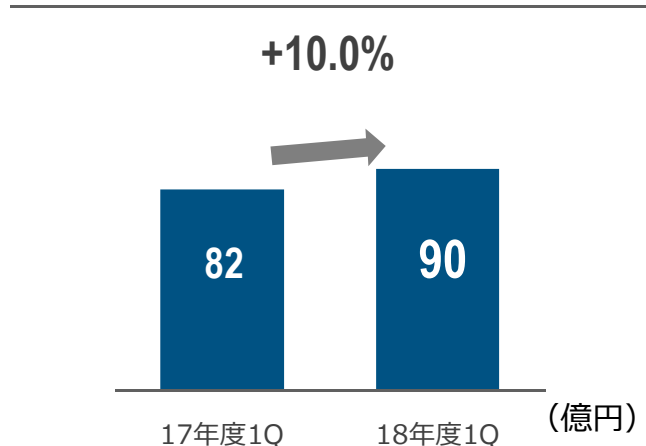
マテリアル

- ・各事業の販売堅調で増収
- ・PC樹脂の販売構成改善等で増益

売上高



営業利益



マテリアル事業

- アラミド繊維の自動車関連向けが順調に拡大
- 炭素繊維の航空機用途向けの販売堅調
- PC樹脂の販売構成が改善
- フィルムの工程用離型用途が好調

繊維・製品事業

- 衣料繊維でスポーツ・アウトドア向け販売が好調維持
- 産業資材で自動車関連部材向け販売がやや低調に推移

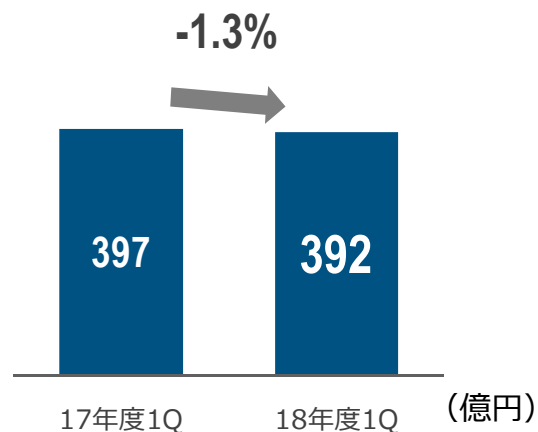
複合成形材料事業ほか

- CSP社の自動車向け量産部品の販売が拡大
- リチウムイオンバッテリーセパレータの民生用途の販売が低調に推移

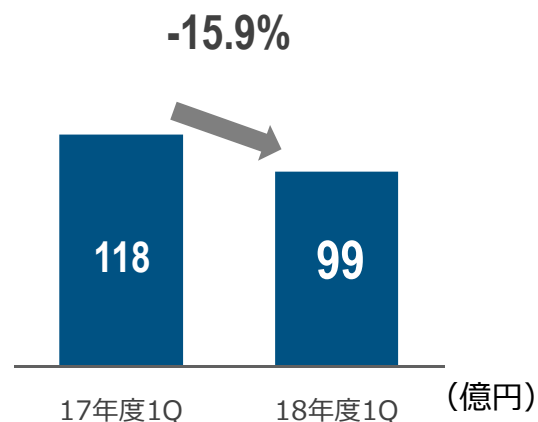
ヘルスケア

- ・薬価・診療報酬改定を主力製品・サービスの販売増でカバー
- ・前期の医薬品分野導出対価がなくなり営業利益減

売上高



営業利益



医薬品分野

- 長期収載品の厳しい環境続くも、高尿酸血症・痛風治療剤の販売が拡大
- 前期は、新規アルツハイマー病治療薬候補化合物の米メルク社への導出に伴う対価（30億円）を計上

在宅医療分野

- HOT用酸素濃縮装置は携帯型製品の品揃え充実も貢献し、高水準のレンタル台数を維持
- 睡眠時無呼吸症候群治療装置（CPAP）は睡眠評価装置「SAS-2100」の活用等でレンタル台数が伸長

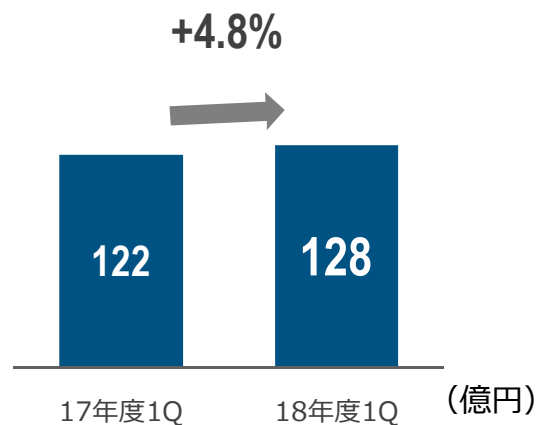
新規ヘルスケア分野

- 埋め込み型医療機器において人工関節や脊椎領域製品を中心に順調に推移

その他

IT事業が堅調に推移

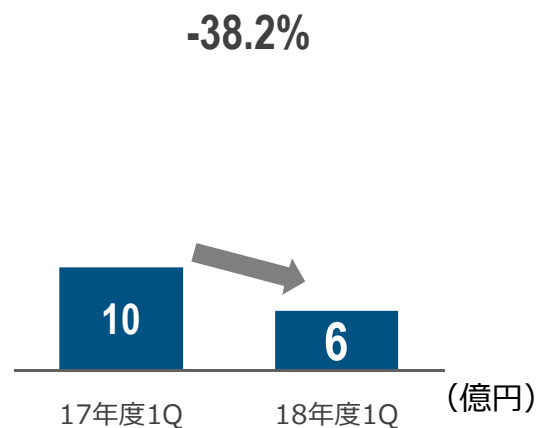
売上高



IT事業

- 電子コミック配信サービス「めちゃコミック」の売上が順調に拡大
- 大手出版社との関係強化による独占先行配信施策も増収に貢献

営業利益



2. 2018年度 業績見通しの概要

業績指標推移

- ・ ROEは10%以上という中期目標を達成継続
- ・ EBITDAは2019年度目標値に向け順調に推移

ROE*1

EBITDA*2

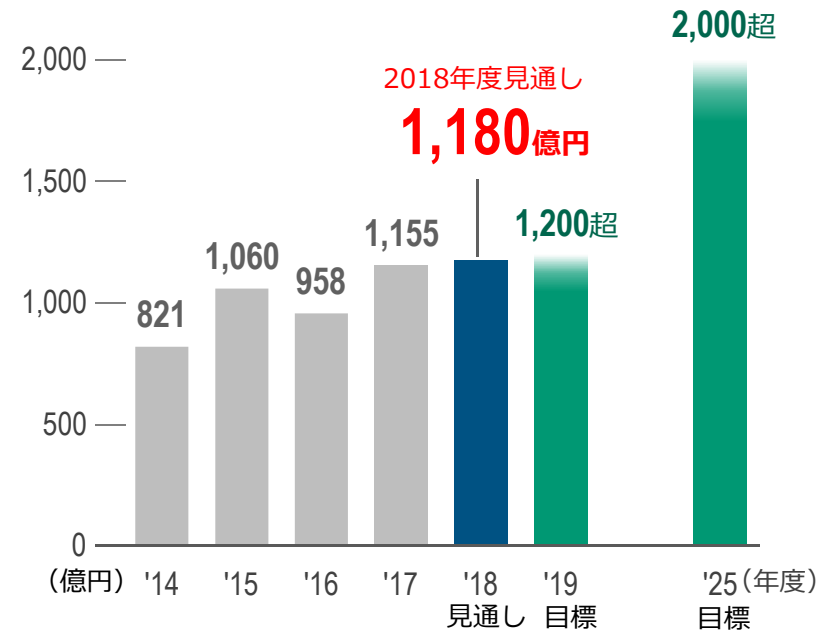
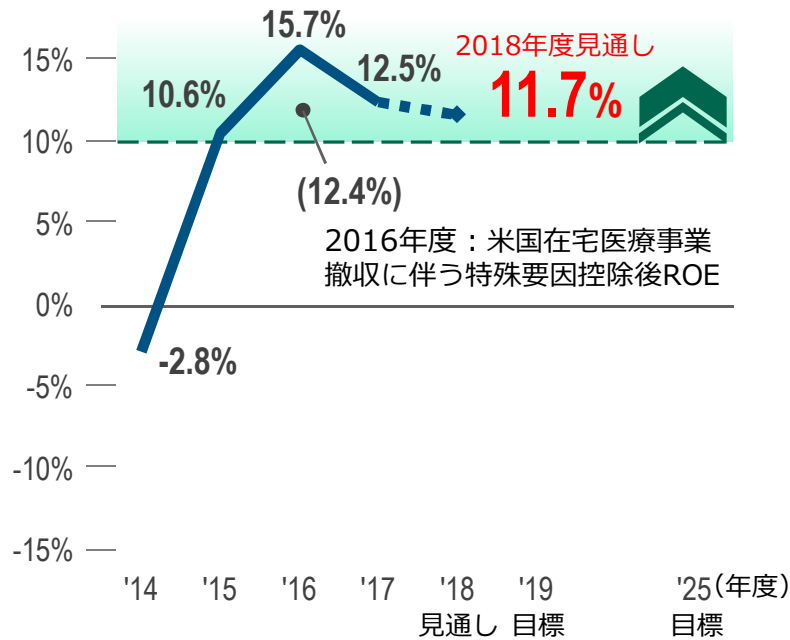
中期
目標

10%以上

2019年度 1,200億円超

2025年度 2,000億円超

推移



*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

*2 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ 通期業績見通しの概況

(億円)	17年度 実績	18年度 見通し	差異	増減率	18年度 前回見通し*5	前回見通し との差異
売上高	8,350	8,900	+550	+6.6%	8,800	+100
営業利益	698	700	+2	+0.3%	700	0
経常利益	678	720	+42	+6.2%	710	+10
親会社株主に帰属する 当期純利益	456	480	+24	+5.4%	470	+10
ROE *1	12.5%	11.7%	-0.8%		11.4%	+0.2%
営業利益ROIC *2	11.2%	10.3%	-0.9%		10.3%	0.0%
EBITDA*3	1,155	1,180	+25		1,180	0
フリー・キャッシュ・フロー	288	150	-138		150	0
設備投資額*4	446	750	+304		750	0
減価償却費	457	480	+23		480	0
研究開発費	359	370	+11		370	0

2018年度見通し 前提条件

為替レート 米ドル=110円、ユーロ=130円
原油価格(Dubai) 70米ドル/バレル

2018年度 配当金見通し (前回見通し*5から変更なし)

中間 30円/株 期末 40円/株 年間 70円/株
(100周年記念配当10円/株を含む)

自己株式の取得を決定 (詳細後述)

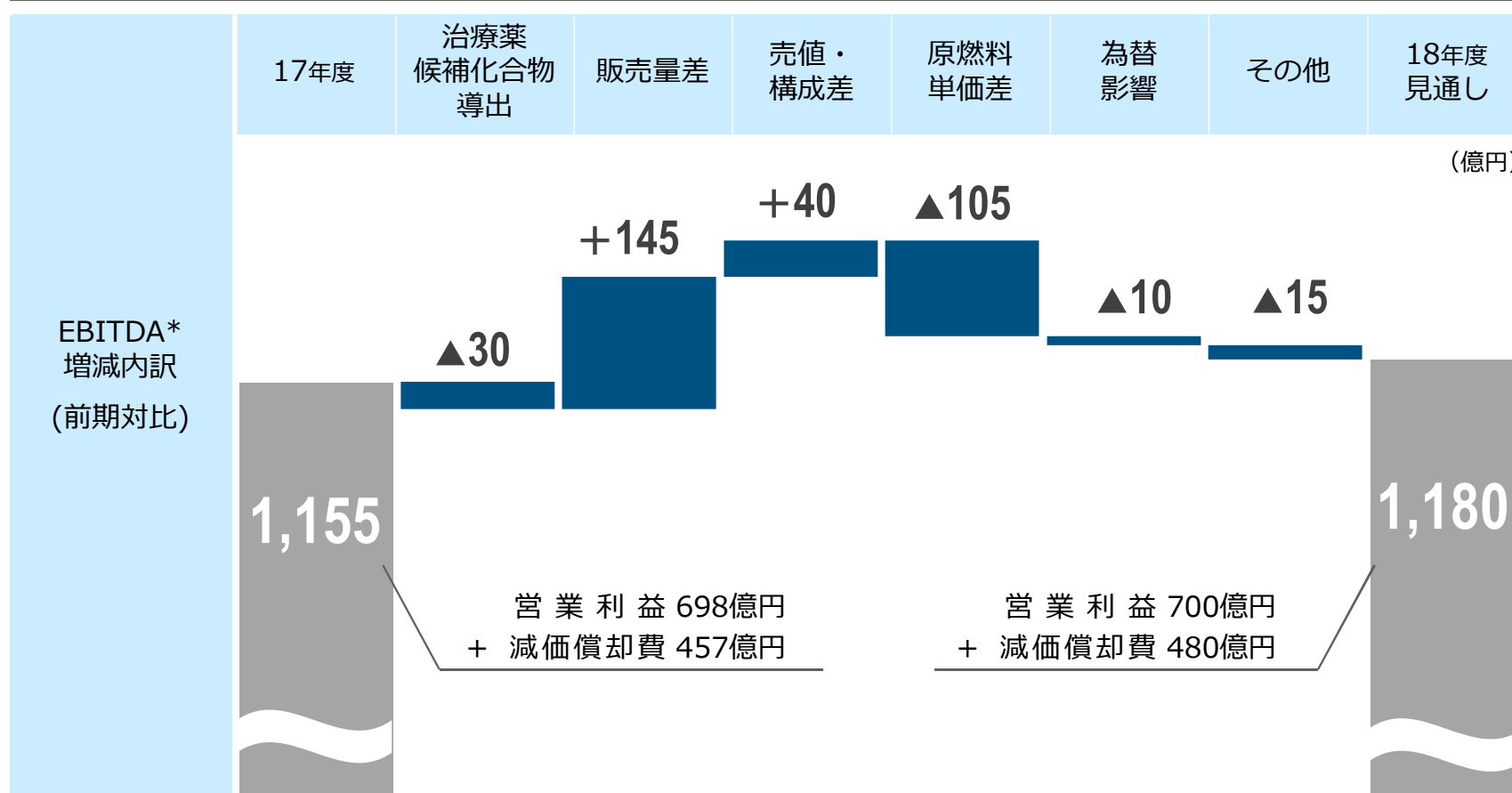
- *1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出
2 「営業利益÷投下資本」にて算出 * 純資産+有利子負債-現金及び預金
*3 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

- *4 設備投資には無形固定資産を含む
*5 前回見通しは2018年5月9日公表

◆ EBITDA*増減内訳 (前期対比)

前期対比
増益見通し

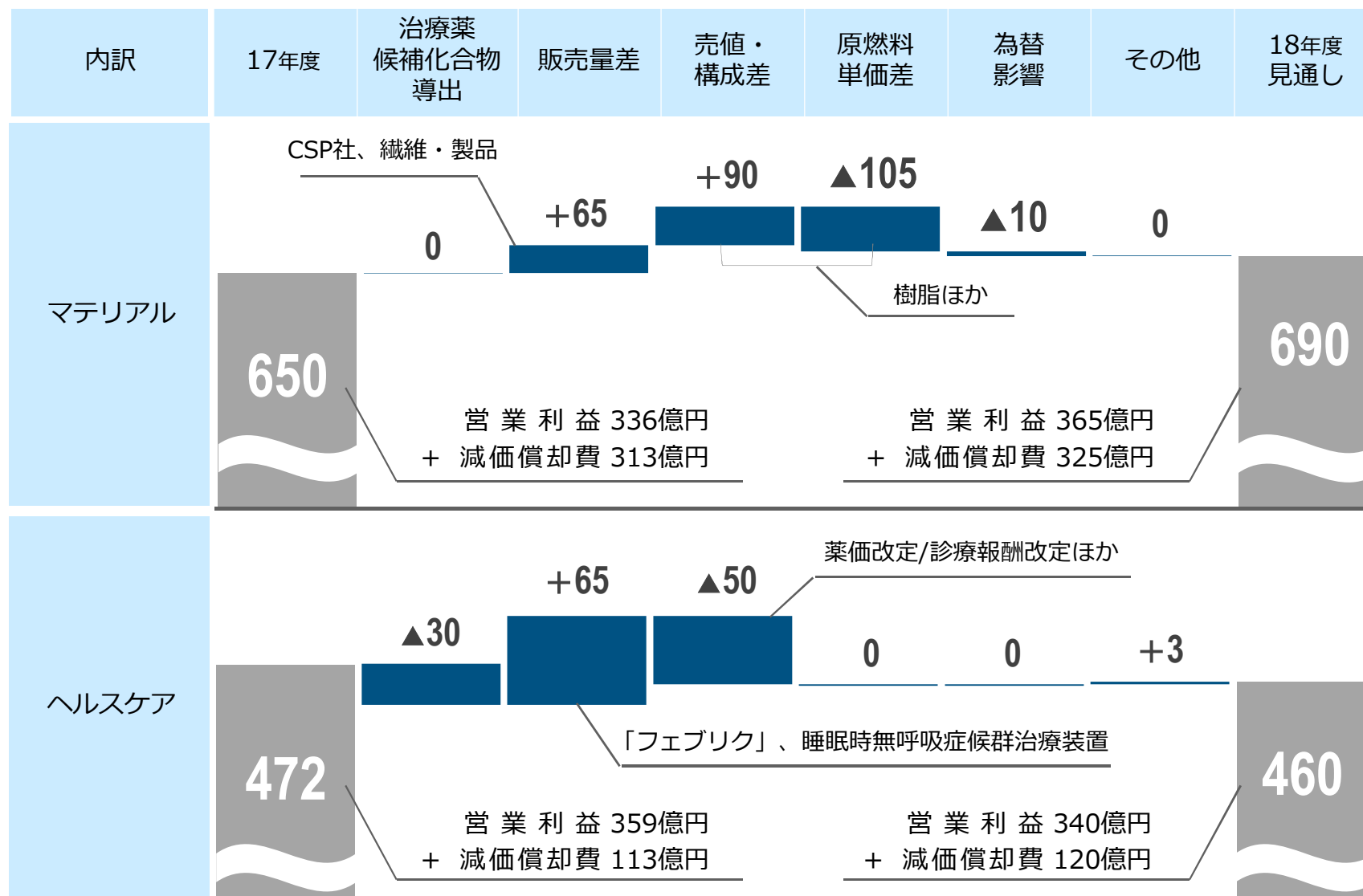
- (+) CSP社の自動車向け複合材料やセパレータの販売増、繊維・製品の改善
- (+) 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブリク」、睡眠時無呼吸症候群治療装置の販売増
- (-) 薬価・診療報酬改定影響、前期の導出対価（治療薬候補化合物）がなくなる



* 「営業利益+減価償却費（のれんを含む）」にて算出

◆ セグメント別 EBITDA*増減内訳 (前期対比)

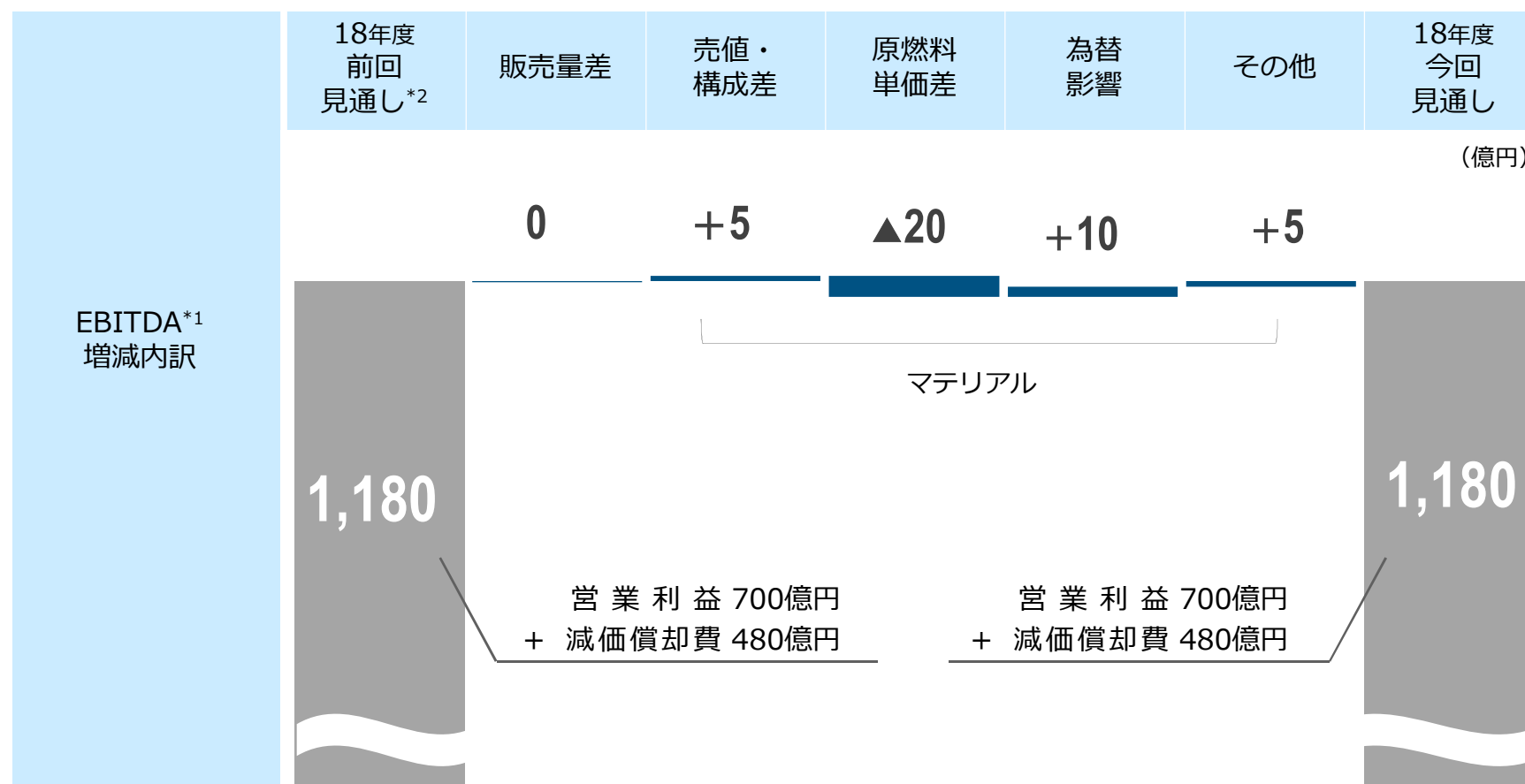
(億円)



* 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む) 」にて算出

◆ EBITDA*1増減内訳 (前回見通し*2対比)

前回見通し*2対比 (+) 為替レート見直し (105円/ドル⇒110円/ドル) による増益効果
 据え置き (-) 原燃料価格上昇によるスプレッド悪化



*1 「営業利益+減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*2 前回見通しは2018年5月9日公表

◆ セグメント別 経営指標

	17年度	18年度	差異	18年度	差異
	実績	今回見通し	前期対比	前回見通し*1	今回—前回
EBITDA*2 (億円)					
マテリアル	650	690	+40	690	0
ヘルスケア	472	460	-12	460	0
その他	78	80	+2	80	0
消去又は全社	-45	-50	-5	-50	0
合計	1,155	1,180	+25	1,180	0
営業利益ROIC*3 (%)					
マテリアル	9%	8%	-1%	8%	0%
ヘルスケア	29%	24%	-5%	24%	0%
合計	11%	10%	-1%	10%	0%

*1 前回見通しは2018年5月9日公表

*2 「営業利益+減価償却費(のれんを含む)」にて算出

3 「営業利益÷投下資本」にて算出 *投下資本 = 純資産+有利子負債-現金及び預金

◆ セグメント別 売上高・営業利益推移（前期対比）

	(億円)	17年度実績			18年度 今回見通し			差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間
売上高								
マテリアル事業		1,234	1,307	2,541	1,350	1,400	2,750	+209
繊維・製品事業		1,401	1,531	2,932	1,550	1,650	3,200	+268
複合成形材料事業ほか		374	402	775	400	450	850	+75
マテリアル 計		3,008	3,240	6,248	3,300	3,500	6,800	+552
ヘルスケア		780	774	1,554	800	750	1,550	-4
その他		258	290	548	250	300	550	+2
合計		4,047	4,303	8,350	4,350	4,550	8,900	+550
営業利益								
マテリアル		169	167	336	170	195	365	+29
ヘルスケア		206	153	359	185	155	340	-19
その他		29	32	61	25	35	60	-1
消去又は全社		-29	-30	-59	-30	-35	-65	-6
合計		375	323	698	350	350	700	+2

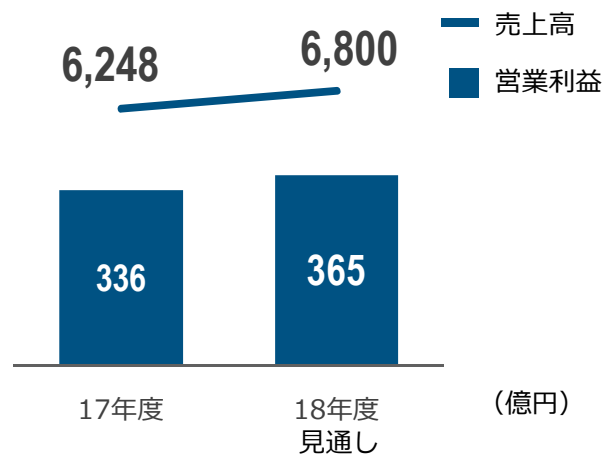
◆ セグメント別 売上高・営業利益推移（前回見通し*対比）

		18年度 前回見通し*			18年度 今回見通し			差異
		上期	下期	年間	上期	下期	年間	年間
		(億円)						
売上高	マテリアル事業	1,300	1,350	2,650	1,350	1,400	2,750	+100
	繊維・製品事業	1,550	1,650	3,200	1,550	1,650	3,200	0
	複合成形材料事業ほか	400	450	850	400	450	850	0
	マテリアル 計	3,250	3,450	6,700	3,300	3,500	6,800	+100
	ヘルスケア	800	750	1,550	800	750	1,550	0
	その他	250	300	550	250	300	550	0
合計		4,300	4,500	8,800	4,350	4,550	8,900	+100
営業利益	マテリアル	160	205	365	170	195	365	0
	ヘルスケア	185	155	340	185	155	340	0
	その他	25	35	60	25	35	60	0
	消去又は全社	-30	-35	-65	-30	-35	-65	0
	合計	340	360	700	350	350	700	0

* 前回見通しは2018年5月9日公表

セグメント別業績見通し概況

マテリアル



CSP社やセパレータ、繊維・製品の販売増で増益

- アラミド繊維：自動車向けを中心に需要が堅調
- 炭素繊維：航空機向けやコンポジット向け販売堅調も原燃料高止まり
- PC樹脂：原料価格高止まりも販売構成改善
- フィルム：国内生産規模縮小の構造改革効果が発現
- 繊維・製品：衣料繊維でスポーツ向け用途の販売増
- 複合成形材料：CSP社の自動車新モデルへ採用効果が拡大
- 電池部材：民生用リチウムイオンバッテリー用セパレータ採用が拡大

ヘルスケア



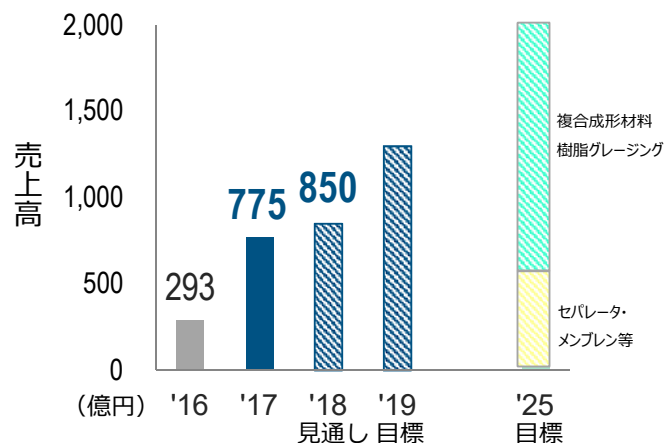
薬価・診療報酬改定影響を販売増でカバーも導出対価計上差有り減益

- 医薬品： 高尿酸血症・痛風治療剤「フェブリック」販売増、薬価改定影響、前期アルツハイマー病治療薬候補化合物導出対価がなくなる
- 在宅医療：睡眠時無呼吸症候群治療装置レンタル台数増、診療報酬改定影響
- 新規ヘルスケア：埋め込み型医療機器の各製品の販売が順調に推移

発展戦略の目標と進捗

- ・ マテリアルはCSP社を中心に自動車軽量化ニーズに対応
- ・ ヘルスケアは製品・サービスのラインナップ拡充を継続

マテリアル 発展戦略



複合成形材料



CSP Europe社 外観

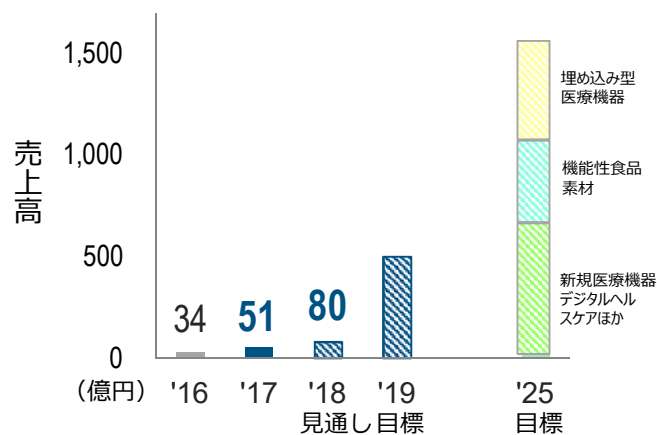
CSP社欧州研究開発拠点への製造設備の新設を決定

- ・ CSP社のフランス拠点であるCSP Europe社にGF-SMC*製造設備を新設することを決定
 - ・ 同拠点は現在研究開発拠点であり、今後、研究開発から製造までの一貫体制としていくことで、欧州の自動車メーカーのニーズに対応していく
- * Glass Fiber-Sheet Molding Compoundの略

【設備新設の概要】

- ・ 新設場所：CSP Europe社
- ・ 投資額：約7億円
- ・ 稼働時期：2019年秋（予定）
- ・ 製品：GF-SMC

ヘルスケア 発展戦略



機能性食品素材



イヌリンパウダー

オランダ企業とイヌリンの独占販売契約を締結

- ・ 水溶性食物繊維の代表的な素材であるイヌリンで世界第2位のシェアのオランダの食品素材メーカーであるセンサス社と、日本におけるイヌリンの独占販売契約を締結
- ・ スーパー大麦「バーリーマックス」に次ぐ素材として2019年度より本格的な販売展開を目指す

「イヌリア」ブランドで国内商品展開

→今後も腸内フローラに着目し「バーリーマックス」「イヌリア」に続く更なる新素材の開発を狙う

非財務情報

帝人グループのCSRマテリアリティとSDGs

帝人グループでは、CSRマテリアリティ（重要課題）の特定にあたり、SDGs が示す社会課題を参照し、グローバルレベルで積極的に取り組んでいます



非財務情報

帝人グループのCSRマテリアリティとSDGs

SDGsに向けた帝人グループの取り組み

<重点領域と製品・サービス>

<トピックス>

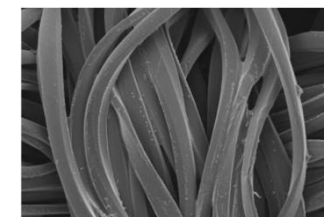
<p>環境価値 ソリューション</p>	<p>安心・安全・防災 ソリューション</p>	<p>少子高齢化・ 健康志向 ソリューション</p>
 <p>マルチマテリアルによる軽量化素材・部材</p>	 <p>超軽量天井材「かるてん」</p>	 <p>「心・血管修復パッチ」(開発中)</p>



防虫素材「スコーロン」が JICA の「SDGsビジネス調査」に採択



7月25日、独立行政法人国際協力機構 (JICA) の「途上国の課題解決型ビジネス調査 (SDGsビジネス調査)」対象案件として、帝人フロンティア株式会社とアース製薬株式会社が共同開発した、虫を寄せつけにくい特殊な加工を施した防虫素材「スコーロン」が、採択されました。



(「スコーロン」の電子顕微鏡拡大写真)

【調査概要】

目的：インドネシアにおける社会課題解決型ビジネスの構築に向けた実現可能性調査

時期：2019年1月～2021年8月

場所：インドネシア共和国

GPIFの3つのESG指数全ての構成銘柄に採用

帝人は、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）がESG投資の運用にあたって選定する「FTSE Blossom Japan Index」、「MSCI ジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」、「MSCI日本株女性活躍指数（WIN）」の3つの指数全ての構成銘柄となっています。



ESG関係に優れている株式銘柄として3つのプログラムに選定

（経済産業省と東京証券取引所との共同主催）



自己株式の取得を決定

決定内容の概要は以下の通り（8月1日公表済みの適時開示資料より）

1. 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため

2. 取得に係る事項の内容

(1) 取得対象株式の種類： 当社普通株式

(2) 取得する株式の総数： 11,000,000株（上限）

（発行済み株式総数(自己株式を除く)に対する割合：約5.56%）

(3) 株式の取得価額の総額： 200億円（上限）

(4) 取得期間： 2018年8月2日から2018年11月30日

3. 決定日

2018年8月1日

3. 参考資料

◆ 主要経営指標推移

	14年度 実績	15年度 実績	16年度 実績	17年度 実績*6	18年度 見通し
ROE*1	-2.8%	10.6%	15.7%	12.5%	11.7%
営業利益ROIC *2	7.1%	12.7%	10.0%	11.2%	10.3%
EBITDA (億円) *3	821	1,060	958	1,155	1,180
1株当たり当期純利益 (円) *4	-41.1	158.1	254.9	231.3	242.63
1株当たり配当金 (円) *4	20	35	55	60	70
総資産 (億円)	8,237	8,234	9,641	9,820	10,500
有利子負債 (億円)	3,082	3,033	3,762	3,442	3,700
D/Eレシオ *5	1.07	1.01	1.11	0.88	0.9
自己資本比率	34.9%	36.4%	35.1%	40.0%	41.0%

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷自己資本」にて算出

2 「営業利益÷投下資本」にて算出

*純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 株式併合による株数の変化を反映したベースで記載

*5 「有利子負債÷自己資本」にて算出

*6 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を18年度から適用しており、17年度実績については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

◆ 連結貸借対照表

(億円)	16年度		17年度				18年度
	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末	3月末*	6月末
資産							
流動資産	5,096	4,668	4,736	4,595	4,755	4,779	5,205
固定資産	3,962	4,973	4,987	4,943	5,031	5,041	5,076
合計	9,058	9,641	9,723	9,538	9,786	9,820	10,281
負債・純資産							
負債	5,515	6,122	5,966	5,560	5,673	5,737	6,047
(内 有利子負債)	3,437	3,762	3,862	3,411	3,475	3,442	3,852
純資産	3,543	3,518	3,757	3,978	4,113	4,082	4,234
合計	9,058	9,641	9,723	9,538	9,786	9,820	10,281

* 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を18年度から適用しており、2017年度末（2018年3月末）については当該会計基準等を遡って適用した後の数値を記載

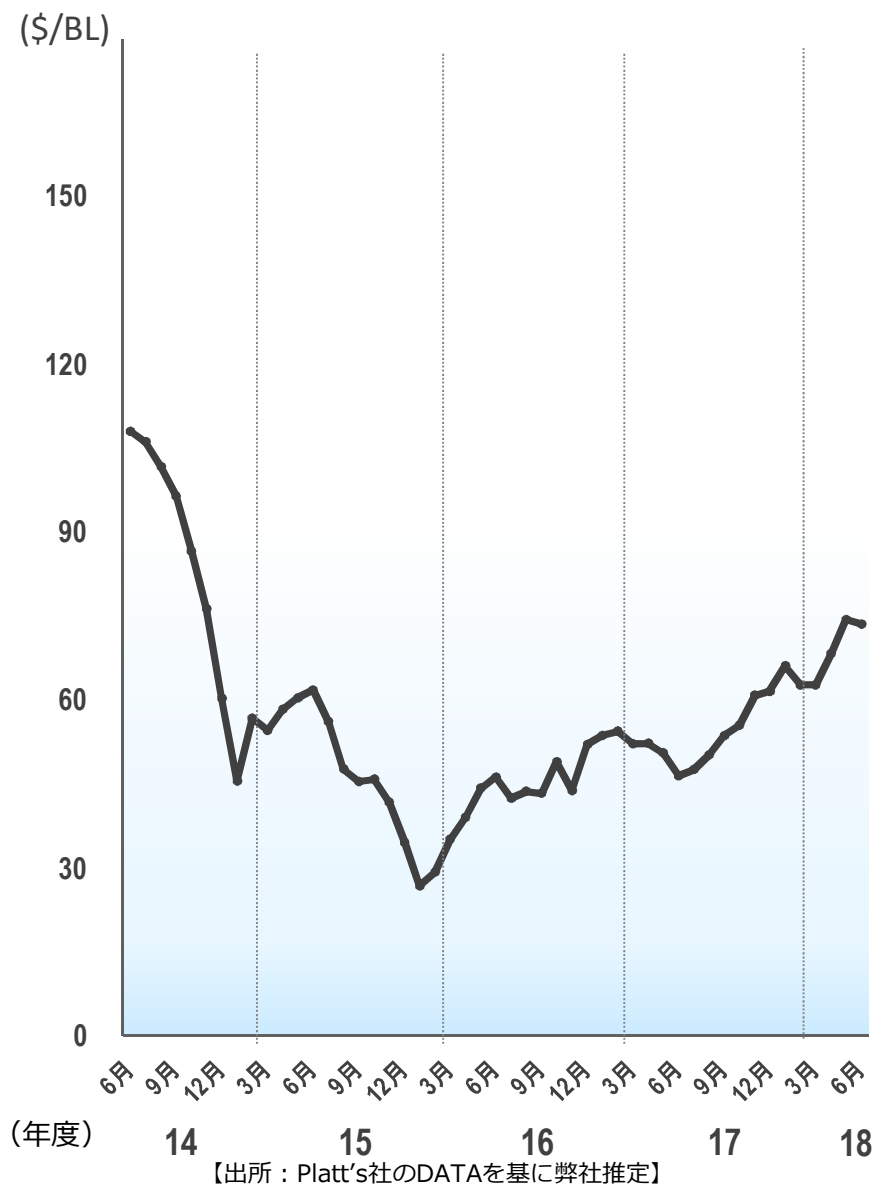
◆ 連結損益計算書

(億円)	17年度				18年度	差異
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	18/1Q-17/1Q
売上高	1,982	2,064	2,100	2,203	2,164	+181
売上原価	1,313	1,398	1,428	1,518	1,477	+164
売上総利益	669	666	672	685	687	+18
販管費	478	483	485	549	505	+27
営業利益	191	184	188	135	183	-9
営業外損益	9	-5	1	-25	29	+20
(内 金融収支)	7	-4	3	-3	6	-1
(内 持分法投資損益)	3	5	1	3	3	-0
経常利益	200	179	189	110	212	+12
特別損益	-5	51	-13	-33	49	+54
税金等調整前 四半期純利益	196	230	176	77	261	+65
法人税等	60	64	68	16	64	+4
非支配株主に帰属する 四半期純利益	2	8	3	3	2	+0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	134	158	105	58	195	+61

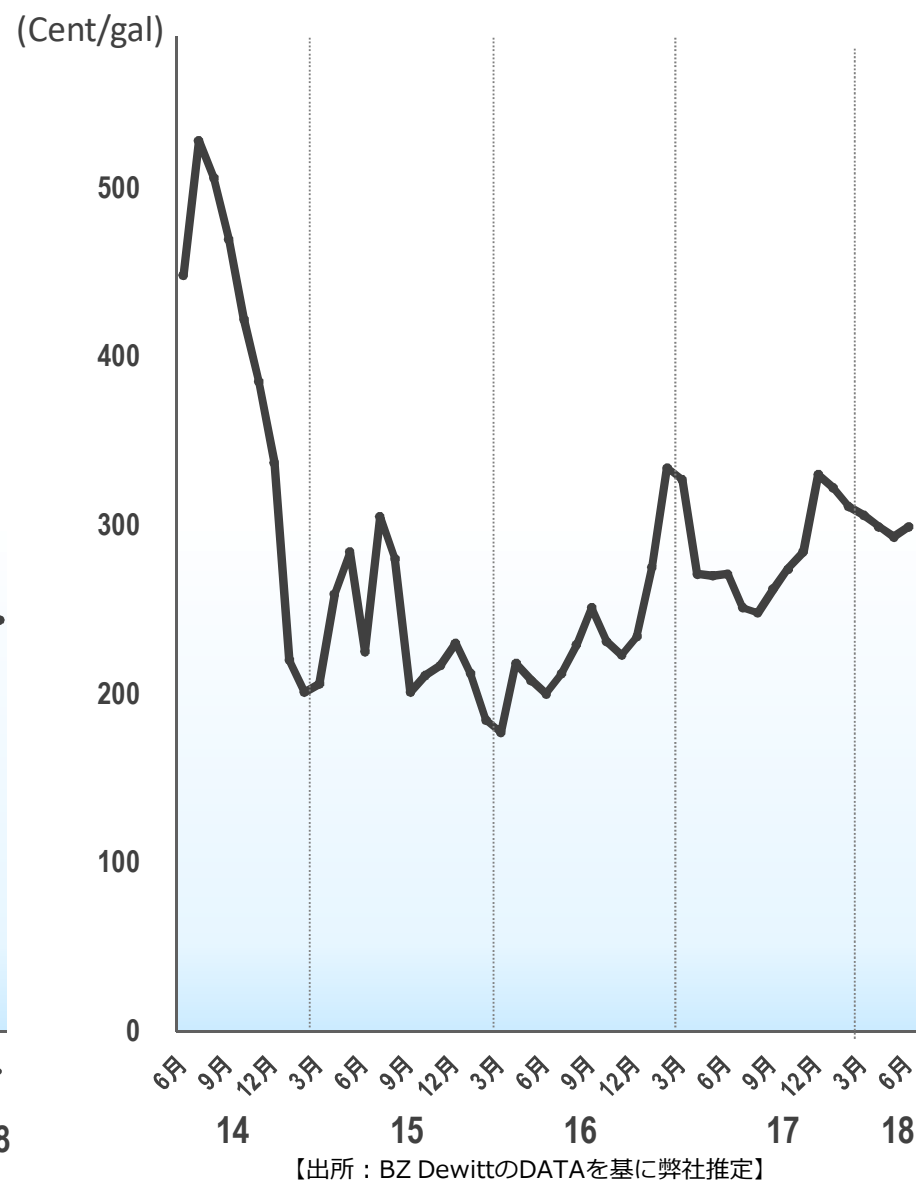
◆ セグメント別 売上高・営業利益 四半期推移

		17年度				18年度	差異
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	18/1Q-17/1Q
		(億円)					
売上高	マテリアル事業	604	630	632	675	687	+83
	繊維・製品事業	664	737	755	776	738	+73
	複合成形材料事業ほか	194	179	174	227	219	+24
	マテリアル 計	1,463	1,545	1,561	1,678	1,644	+181
	ヘルスケア	397	383	408	365	392	-5
	その他	122	136	130	159	128	+6
	合計	1,982	2,064	2,100	2,203	2,164	+181
営業利益	マテリアル	82	87	73	94	90	+8
	ヘルスケア	118	88	115	38	99	-19
	その他	10	19	12	20	6	-4
	消去又は全社	-19	-11	-12	-17	-13	+6
	合計	191	184	188	135	183	-9

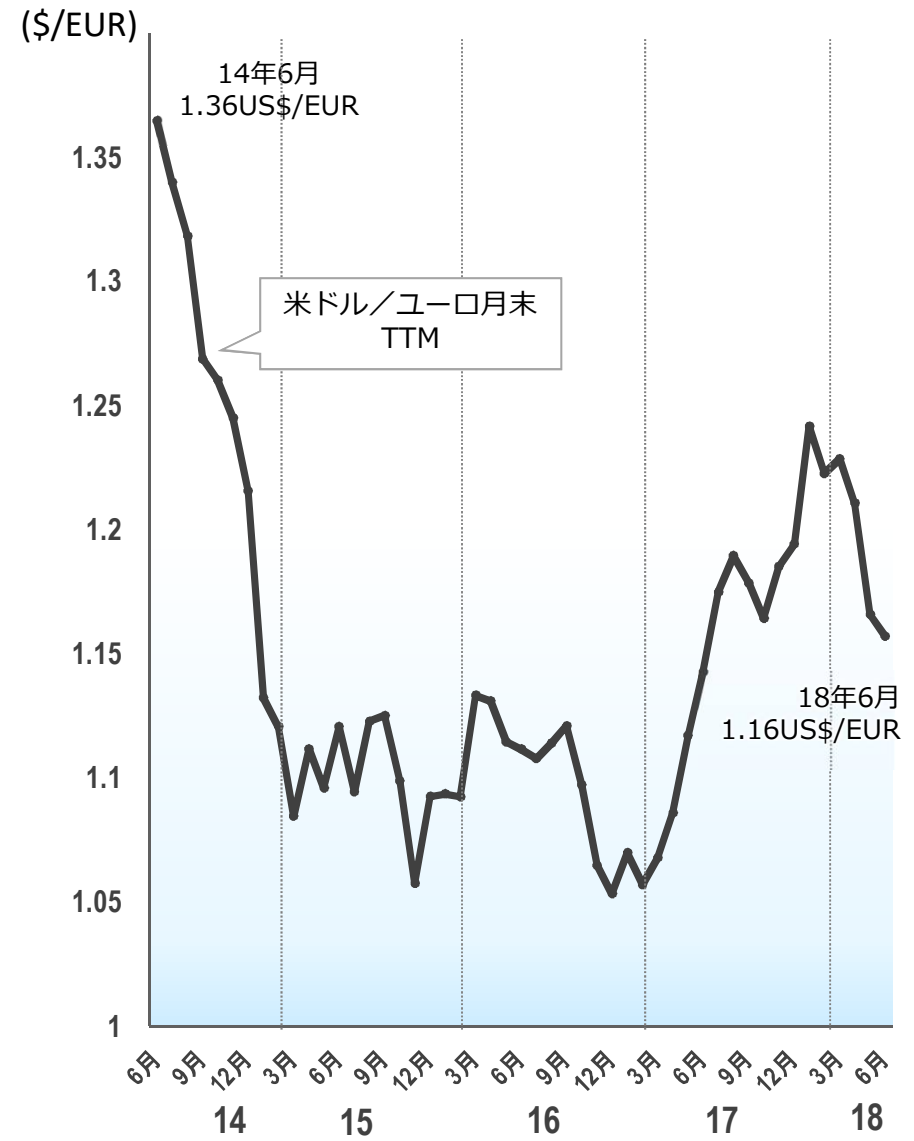
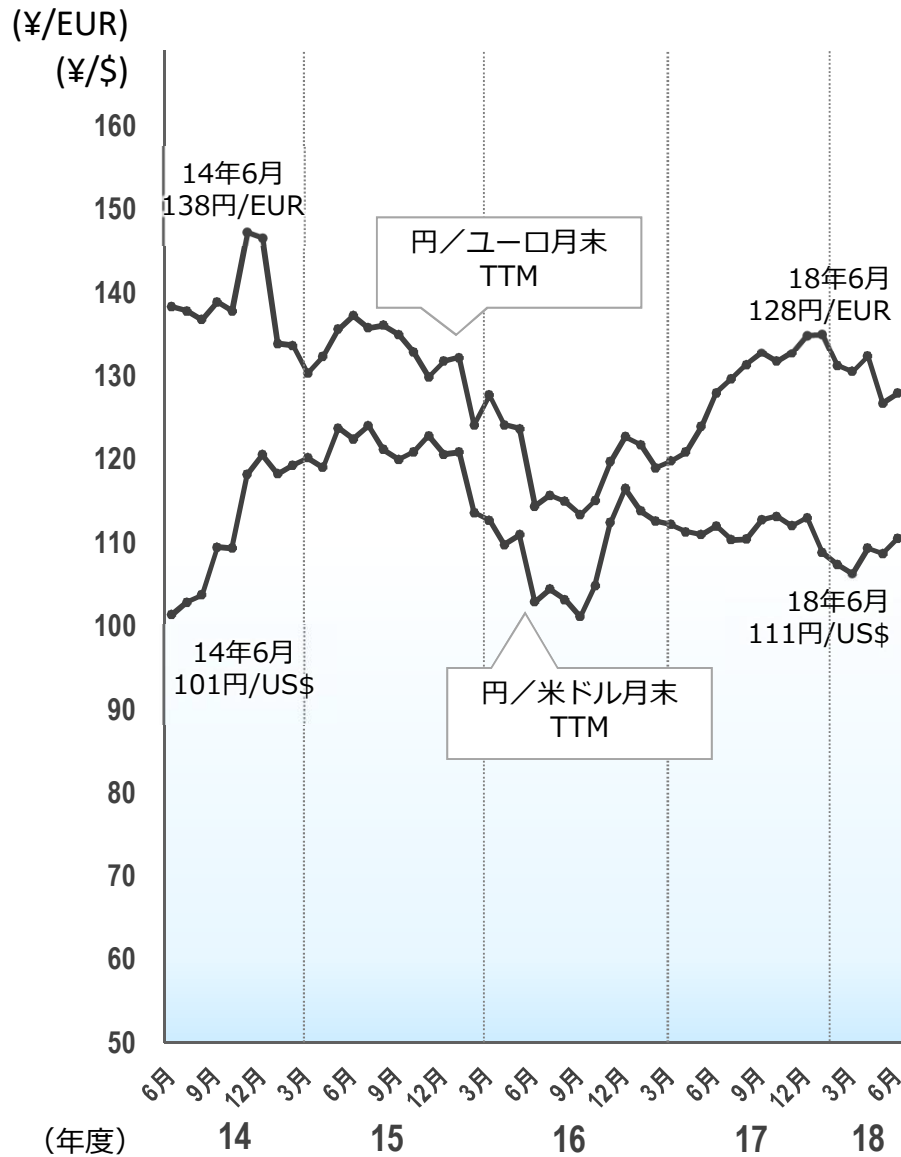
◆ ドバイ原油価格推移



◆ ベンゼン価格推移



◆ 為替レート推移 (円/米ドル、円/ユーロ、米ドル/ユーロ)



◆ 主要医薬品 売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	17年度					18年度 1Q
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	
ボナロン [®] *1	骨粗鬆症治療剤	28	28	30	22	109	26
ワンアルファ [®]	骨粗鬆症治療剤	9	9	9	5	31	5
骨粗鬆症治療剤	計	37	36	39	28	140	31
フェブリク [®]	高尿酸血症・痛風治療剤	74	75	88	69	307	87
ベニロン [®]	重症感染症治療剤	13	13	14	11	51	13
ムコソルバン [®]	去痰剤	13	12	15	12	51	10
ソマチュリン [®] *2	先端巨大症及び下垂体性巨人症、 瘰・消化管神経内分泌腫瘍治療剤	4	6	8	7	25	8
ロコア [®]	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	5	5	4	18	5
ラキシベロン [®]	緩下剤	4	5	5	3	17	4
トライコア [®]	高脂血症治療剤	4	4	4	2	14	3
オルベスコ [®]	喘息治療剤	3	3	3	3	12	3

*1 ボナロン[®]/Bonalon[®] はMerck Sharp & Dohme Corp. (米)の登録商標です。

*2 ソマチュリン[®]/Somatuline[®] は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です。

◆ 疾患分野別臨床開発段階 (2018年6月末現在)

	臨床開発段階				
	Phase I	Phase II	Phase III	承認申請	承認／ 新規上市*1
骨・関節 領域		KTP-001	ITM-058 NT 201		
呼吸器 領域		PTR-36			
代謝・循環器 領域		TCF-12 TMX-049 TMX-049DN	ITM-014T	STM-279*2 TMX-67 (中国)	ITM-014N
その他			GGs-ON GGs-MPA GGs-CIDP		

*1 承認／新規上市は直近1年間を記載

*2 2018年6月に製造販売承認申請

◆ 新規開発医薬品 (2018年6月末現在)

【承認/新規上市】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-014N (ランレオチド酢酸塩)	膵・消化管神経 内分泌腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導 (直接的作用) や細胞栄養因子の分泌制御 (間接的作用) を介した作用により、神経内分泌腫瘍の進展抑制や諸症状の改善が期待される。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加) 2017年7月承認取得

【承認申請】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
STM-279	ADA (アデノシン・デアミナーゼ) 欠損症	本剤 (ポリエチレングリコール修飾遺伝子組換えウシADA類縁体) は、ADA欠損症患者にADAを補充することで、リンパ球の減少を抑える注射剤であり、重症複合免疫不全症 (SCID) の発症を回避することが期待される。	注射	導入： 英リーディアント社 2018年6月承認申請
TMX-67 (フェブキソスタット)	高尿酸血症・ 痛風	国内販売しているフェブリク錠を中国に導出する。本剤は、強力な尿酸生成抑制効果に加え、腎機能低下等により既存治療薬を使うことのできなかつた患者へも使用が可能である。	錠剤	共同開発： アステラス製薬 (中国) 有限公司 2015年11月承認申請

◆ 新規開発医薬品 (2018年6月末現在)

【Phase III】

開発コード (一般名)	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
ITM-058	骨粗鬆症	強力な骨形成作用により短期間で骨密度増加と骨折抑制効果が期待できる骨粗鬆症治療薬。既存薬に比べ、強い骨密度増加作用と安全性（高カルシウム血症のリスク低減）が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社
NT 201	A1型ボツリヌス毒素活性本体/ 上肢・下肢痙縮	A1型ボツリヌス毒素活性本体による筋弛緩作用により、上肢・下肢痙縮における骨格筋の緊張の緩和・改善が期待される。	注射	導入： 独メルツ社
ITM-014T (ランレオチド酢酸塩)	甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍	ソマトスタチン受容体を介したアポトーシスの誘導（直接的作用）や細胞栄養因子の分泌制御（間接的作用）を介した作用により、甲状腺機能の正常化が期待できる。	注射	導入： 仏イプセン社 (効能・効果追加)
GGs-ON (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	視神経炎	本剤の免疫調節作用により、視神経の炎症を抑制し、視機能を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
GGs-MPA (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	顕微鏡的多発血管炎	本剤の抗炎症作用と免疫調節作用により、自己免疫性血管炎を鎮静化させ、標準治療で残存する神経障害（多発性単神経炎）を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)
GGs-CIDP (乾燥スルホ化人免疫グロブリン)	慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	本剤の免疫調節作用により、末梢神経の炎症を抑制し、低下した筋力を改善することが期待される。	注射	共同開発：化血研 (効能・効果追加)

◆ 新規開発医薬品 (2018年6月末現在)

【Phase II】

開発コード	対象疾患	薬効・特徴	剤型	備考
KTP-001	腰椎椎間板ヘルニア	腰椎椎間板ヘルニアに対する化学的髄核融解療法剤。生体内でヘルニアの自然退縮に関わる酵素（マトリックスメタロプロテアーゼ）と同じ構造のヒト型タンパク質であることからアレルギー反応のリスクが少なく、選択的に作用するため、椎間板周囲組織の傷害性が低いと期待される。	注射	発明者： 波呂浩孝氏、 小森博達氏 共同開発：化血研
PTR-36	気管支喘息	新規作用機序（CRT _{h2} 拮抗作用）によって喘息症状をコントロールする長期管理薬。単剤による吸入ステロイドと同等の治療効果（軽症患者）や吸入ステロイドとの併用による十分な治療効果（軽症～重症の患者）が期待される。	錠剤	導入： 英プルマジェン・セラピューティクス（アズマ）リミテッド社
TCF-12	慢性腎臓病	繊維状吸着炭であり、尿毒素に対する高い吸着能力から、慢性腎臓病（進行性）における尿毒症症状の改善及び末期腎不全（ESRD）発症の遅延、並びに用量低減による服薬アドヒアランスの向上が期待される。	カプセル剤	自社開発品
TMX-049	高尿酸血症・痛風	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規高尿酸血症治療薬として、有効性と安全性に優れることが期待される。	錠剤	自社開発品
TMX-049DN	2型糖尿病における糖尿病性腎臓病	非プリン型キサンチンオキシダーゼ阻害薬。新規糖尿病性腎症治療薬として、腎症の進展抑制が期待される。	錠剤	自社開発品

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions